



【日本プロテオーム学会通信 No. 31】

2010. 4. 5

【日本プロテオーム学会通信】は、日本プロテオーム学会会員の皆様に配信しています。

## 【AOHUPO 第 5 回大会 報告】

会長 平野 久

AOHUPO 第 5 回大会が 2 月 21~25 日、インドのハイデラバードで R. Sirdeshmukh (インド) の主宰によって開催されました。遅くなりましたが、大会の様子をご報告します。今回の大会の参加者は (推定) 200~300 名。多くはインド人。ほかに、台湾やオーストラリアからの参加者も目につきました。日本からは私 1 名。アジア・オセアニアのプロテオーム研究の発展に日本が貢献するのであれば、もう少し参加者があった方がよかったですと思います。

2 月 21 日には若手研究者向けのワークショップがありました。22 日は朝から夕方まで企業ワークショップ。夕刻、S. Hanash (米国) 教授の特別講演がありました。23~25 日には招待講演者によるシンポジウムが開かれました。講演者は S. Hanash、J. Yates (米国)、P. P. Ping (米国)、G. Righetti (イタリア)、Y.-K. Paik (韓国)、R. Simpson (オーストラリア)、M. Uhlen (スウェーデン) 教授などでした。講演内容は特に目新しいものはなかったと思います。今回の大会はインドの研究者にプロテオミクスを紹介するといった感じのものでした。

23 日に開催された理事会には、Y.-K. Paik 会長、R. Simpson、Y. J. Cheng (台湾)、M. C. C. Ming (シンガポール)、R. Sirdeshmukh 教授と私が出席しました。理事会の議題は AOHUPO Initiative と次期大会、2 件だけ。現在、AOHUPO では、Initiative として ES 細胞のプロテオーム解析を検討していますが、現在行われている Membrane Proteomics Initiative との関係、研究資金、研究の意義などに関して話し合いました。私は研究の戦略に新規性がないのでさらに議論を深めてから研究を開始した方がいいという意見を述べました。今回の理事会に、Initiative の中心人物となる予定のイランの H. Salekdeh 博士が出席していなかったこともあって、特に何かの結論を出すことはありませんでした。研

究内容についてさらに議論することになりました。一方、次期開催地についても議論になりましたが、前回の大会の際開かれた理事会でハイデラバードと共に中国上海が候補に上っていましたので、上海での開催が可能かどうか打診してみることにしました。この場合は 2012 年開催になると予想されます。上海開催が実現しない場合は、開催を 1 年ずらして 2013 年に、横浜で開催予定の HUPO 第 12 回大会と一緒に開催してはどうかという案が出ました。

なお、25 日には、ES 細胞プロテオミクス Initiative に関連した講演や、HUPO のプロジェクトとなることが報告されている Human Proteome Project に関するパネルディスカッションが開かれた模様です。私は仕事の都合で参加できませんでした。

今回の大会が開催されたインド、ハイデラバードはインド中央部に位置する IT 産業が盛んな大都市。しかし、ホテル、ゲストハウス、大会会場でもインターネットが使えず、IT が生活に溶け込んでいるとは思えませんでした。私は、主催者が用意してくれたゲストハウスに多くの招待講演者と共に宿泊しましたが、会場キャンパス内で便利だったのですが、外国人にとっては居心地が悪かったせいか、多くの方が 1 日で会場から 20 km 以上離れたホテルに移りました。私は最後までゲストハウスに滞在しました。ハイデラバードの 2 月は乾期。気温は毎日 35℃以上ありました。日本は真冬でしたので、束の間の夏を楽しむことができました。

**【日本プロテオーム学会通信】**に対するご意見をメールにてお寄せ下さい (宛先は [hirano@yokohama-cu.ac.jp](mailto:hirano@yokohama-cu.ac.jp))。ご意見を **【日本プロテオーム学会通信】** に掲載希望の場合はその旨お知らせ下さい。

**【アドレス変更/配信中止】****【ご質問・お問合せ】**は、日本プロテオーム学会事務局([cljhupo@secretariat.ne.jp](mailto:cljhupo@secretariat.ne.jp))にお願いいたします。